

長崎県中山間ふるさと活性化基金

1. 事業の目的

中山間地域における農地や施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るため、地域住民活動を推進する人材の育成、農地や施設の利活用及び保全整備等の促進に対する支援を目的とする。

2. 令和5年度の実施状況

(1) 県民への情報発信

農村への関心を持ってもらうことと、地域の良さを再発見してもらうことを目的に、情報誌を県内各市町、振興局等の行政機関窓口とJA等に配布。

(2) ボランティアと農山村集落と共働による農山村資源保全活動

令和2年度から、県がボランティアセンター(NPO法人)に委託して、社会貢献に前向きな企業等を募集し、農地、農業用水路や農道等の維持管理が困難となっている地域に派遣して、ボランティアと農山村集落の住民が共働して保全活動を実施している。

【取組の状況】

長崎市、大村市、東彼杵町、雲仙市、平戸市、松浦市、五島市の14集落とマッチングを行い、企業や学校などと共同活動を実施。

3. ボランティアと農山村集落と共働による農山村資源保全活動の実施状況

● 令和5年1月 28 日実施（諫早市有喜集落、イワテック）

共同作業内容

排水路の清掃(土砂上げ)、休耕地の草刈



●令和5年2月 25 日実施（諫早市有喜集落、九州テクノ）

共同作業内容

イノシシ防護柵(ワイヤーメッシュ)の設置



●令和5年7月 30 日実施（大村市北野岳集落・南野岳集落、第一生命保険）

共同作業内容

用水路の清掃(草刈り)



※昨年度の委員会で説明した事例

●令和5年2月2日実施(長崎市千々木場集落、ダイワリース)

共同作業内容

暴風雪により倒壊した農業用ビワハウスの撤去に伴う園路の補修



ボランティアと農山村集落の共働による集落維持活動事業費

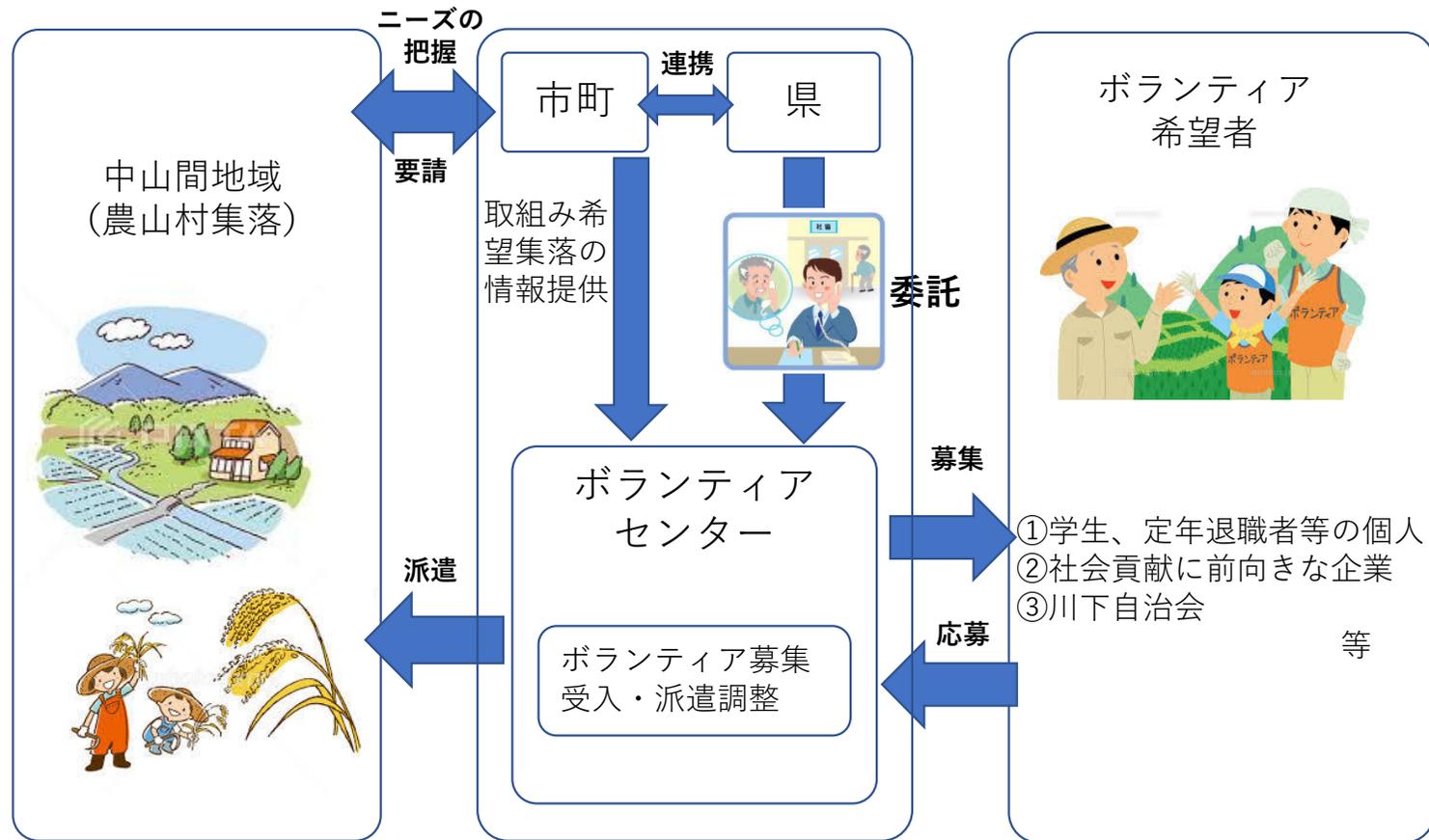
・農山村集落では人口減少、高齢化により、集落の保全活動が困難となっていることから、県がボランティアセンター（NPO法人）に委託して、学生、定年退職者等の個人、社会貢献に前向きな企業等を募集し、農地、農業用水路やため池等の維持管理が困難となっている地域に派遣し、農山村集落の住民との共働による保全活動を実施する。

事業の概要

①学生、定年者等の個人
 ②社会貢献に前向きな企業
 ③川下自治会 等
 多様な外部サポーターとの共働による、農地等地域資源の保全管理に取り組む集落を支援する。
 事業実施にあたっては、①～③の各ボランティアと農山村集落間の保全活動内容の調整等を支援する業務をボランティアセンターに委託する。

【ボランティアセンターの業務】

- ・ボランティア活動を希望する受入集落との打ち合わせ
- ・関係市町、県（出先機関含む）との調整
- ・ボランティアの募集、調整、派遣
- ・ボランティア活動の情報発信



○成果

- ・集落の共同作業の実施が困難となっている地域に対し、中山間ボランティアセンターを介して、社会貢献に前向きな企業をボランティアとして集落に派遣。
- ・受け入れた集落からも、感謝の声があり、ボランティアとして参加した企業も社会貢献活動実施の達成感を得ることができた。
- ・集落とボランティアに参加した企業の関係が構築され、深化が見られる地区もあり、一定の成果が上がってきている。

○課題

- ・ボランティア受入れ検討可能集落に対し、集落との共同活動への参加に意欲的な企業数が不足している。
- ・企業は都市部に偏在しており、農村部には企業数が少ない。都市部から農村部への交流にどのようにして呼び込むかが課題。

○方向性

- ・社会貢献に前向きな企業を対象とした長崎県 SDGs 登録制度があり、登録企業を対象として、電話連絡や直接訪問するなどして意向を確認。
- ・共働活動の実施状況について、HPで情報発信を実施。参加企業のイメージアップを図るとともに、集落に対する共働活動の説明資料として活用。



つなぐ 棚田遺産 活動 レポート



主催：農林水産省



つなぐ棚田遺産 感謝状とは？



・「つなぐ棚田遺産」とは・

棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能に対する、より一層の理解の促進を図ることを目的として、令和4年3月に271の棚田を農林水産大臣が「つなぐ棚田遺産」に認定。

・感謝状の趣旨・

棚田地域における多様な主体との連携や協力を促進することを目的として、棚田地域の振興等に貢献する企業・大学等の取組を評価し、優れた取組を実施する企業等に感謝状をお贈りします。

選定委員

池邊 このみ

千葉大学大学院 園芸学研究科
環境造園デザイン学研究室教授

黒田 乃生

筑波大学芸術系教授

樋田 かおり

株式会社トークナビ代表取締役/
アナウンサー

中島 淳

福岡県保健環境研究所
専門研究員

中島 峰広

NPO法人棚田ネットワーク名誉代表
早稲田大学名誉教授

水柿 大地

NPO法人英田上山棚田団理事/
みんなの孫プロジェクト代表

山路 永司

棚田学会会長/
東京大学名誉教授

山本 早苗

常葉大学社会環境学部
社会環境学科准教授

特別感謝状

「感謝状贈呈企業」の中から、各部門ごとに、特に優れた取組を実施いただいている企業・団体等にお贈りする特別な感謝状です。

3部門についての説明

未来へつなぐ部門

棚田の維持・保全を含む棚田地域の活性化に係る取組において継続的に重要な役割を担っている企業が対象。

人と人をつなぐ部門

多くの棚田地域の振興に取り組み、人や地域との結びつき、つながりを強化・広げるなど地域における結束力の進化に寄与している企業が対象。

クリエイティブ部門

先進性、独創性、話題性がある取組を行う企業が対象。

本冊子では、棚田地域振興の活動に尽力くださり、特別感謝状を贈呈された5団体を取り上げ、紹介いたします。

39team

Thank
you!

感謝状贈呈企業一覧

★…特別感謝状贈呈企業

団体名	都道府県	取組年数
未来へつなぐ部門		
国立大学法人 弘前大学	青森	7年
(株)白神ぶなっこ教室	秋田	12年
株式会社商船三井	福島	4年
★株式会社大塚商会	千葉	18年
株式会社クイック	富山	17年
喜久水酒造株式会社	長野	5年
株式会社 丸八製菓	愛知	10年
トヨタ紡織滋賀株式会社	滋賀	5年
株式会社長田野ガスセンター	京都	5年
和歌山大学観光学部 棚田ふぁむ	和歌山	12年
★NPO法人bankup	鳥取	21年
株式会社 アテナ	島根	10年
NPO法人 うちぬき21プロジェクト	愛媛	6年
国立大学法人 高知大学	高知	13年
株式会社 岩田屋三越	福岡	7年
大分県立宇佐産業科学 高等学校グリーン環境科	大分	4年
酒谷むらおこし株式会社 (道の駅 酒谷)	宮崎	11年
人と人をつなぐ部門		
★株式会社ナルサワコンサルタント	新潟	24年
株式会社 デリカサイト	岐阜	13年

団体名	都道府県	取組年数
「小さな親切」運動静岡県本部	静岡	11年
株式会社Amnak	兵庫	7年
国立大学法人 広島大学	広島	18年
特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会	山口	3年
クリエイティブ部門		
阿武隈急行株式会社	宮城	2年
宮城県伊具高等学校	宮城	3年
技研株式会社	山形	3年
株式会社三友エンジニア	山形	3年
日本航空株式会社 新潟支店	新潟	2年
株式会社御祓川	石川	3年
エレコム株式会社	三重	4年
一般社団法人全国農協観光協会	和歌山	3年
かみかつ棚田未来づくり協議会	徳島	3年
★タケサンフーズ株式会社	香川	2年
株式会社大義建設	佐賀	1年
金崎建設株式会社	佐賀	4年
長崎県立大学	長崎	11年
D-SEVEN	熊本	4年
宮崎梅田学園 株式会社	宮崎	4年
★株式会社さとふる	全国	1年

取組年数は2022年12月時点

棚田を未来につなぐための活動、ありがとうございました。

お問い合わせ先:農林水産省 農村振興局 農村政策部 地域振興課 [電話]03-6744-2081



長崎県立大学

取組年数
11年

きっと帰りたくなるあなたの田舎・波佐見の鬼木棚田

関係棚田情報

鬼木の棚田の他1カ所

| 所在地

波佐見町

| 認定

- ・ 指定棚田地域
鬼木棚田
- ・ つなぐ棚田遺産
鬼木棚田
- ・ 日本の棚田百選
鬼木棚田



第20回鬼木棚田まつり・学生が運営スタッフで手伝っている様子



第20回鬼木棚田まつり（2019年9月23日開催）の案内ポスター



学生が収穫後の有効活用を思案している様子・2021年3月30



鬼木棚田燈明祭の様子・2021年11月6日学生スタッフ撮影



きっかけ

観光客を伸ばすため平成13年から「来なっせ100万人」をスローガンに掲げ、窯業、農業に続く、第3の産業としてイベントや椎茸作り体験などが、町内で湧きあがった。鬼木棚田地区でも、農家を中心に盛り上がり、鬼木棚田まつりの継続につながっている。



取組内容

長崎県立大学では、観光や地場産業をテーマにした実地研究の場として、鬼木棚田をフィールドワークとして位置づけ、地域の方々と意見交換しながら、共同で観光資源の掘り起こしや体験型メニューの創出に取り組んでいる。



推薦理由

県内事例をもとに検討したところ、当該企業等が取組年数が比較的長く、取組内容が優れており、地域の活性化を通じて棚田の維持に寄与していることから推薦。



棚田からみなさんへ

感謝状
を
贈呈!

ありがとうを
伝えたい。

つなぐ棚田遺産

TSUNAGU TANADA HERITAGE



棚田地域の維持・保全・振興等にご貢献する
企業・大学等の皆様に感謝状をお贈りします。

応募
期間

2023年9月6日^水～10月13日^金まで

表彰には審査がございますので、裏面の詳細情報をご確認くださいませ。

つなぐ棚田遺産

感謝状とは

棚田地域の維持・保全・振興等に貢献する
企業・大学等の皆様に感謝状をお贈りします。



つなぐ棚田遺産について

棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能に対する、より一層の理解の促進を図ることを目的として、令和4年3月に271の棚田を農林水産大臣が「つなぐ棚田遺産」に認定。

感謝状の趣旨

棚田地域の維持・保全・振興等に貢献する企業・大学等の取組実績を積極的に評価し、推薦する候補企業などに感謝状をお贈りします。

棚田地域振興の取組はSDGsの17の目標に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



こんな企業様が
棚田地域の振興に貢献されています

オフィシャルサポーター企業様をはじめとして、日本全国の企業様が
つなぐ棚田遺産の取り組みにご協力いただいています。

- 社会貢献活動をしたい
- 社員交流の場を持ちたい
- 社員や家族に農業体験をさせたい
- 地域のみなさんに貢献したい

応募要項

応募方法 1 都道府県による推薦(概ね各都道府県1団体)

都道府県は推薦書を作成し、応募先のアドレスに提出します。推薦書の様式のダウンロードや推薦方法の詳細については、農水省ホームページをご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/tanada/kansyajyobosyu.html>



応募方法 2 事務局による推薦

応募期間 9月6日(水)~10月13日(金)

応募先 農林水産省「つなぐ棚田遺産感謝状事務局(株式会社マリッジリンク内)」
ml@marriage-link.jp

審査の基準

- 対象企業等 概ね各都道府県1企業
- 対象となる取組 高齢化や担い手不足等の棚田地域の課題を踏まえた支援に係る取組

特別感謝状

特に優れた取組を実施する企業等に贈呈。

感謝状

優れた取組を実施する企業等に下記各部門から贈呈。

感謝状対象部門

- 「未来へつなぐ」部門.....主に取組年数を考慮
- 「人と人をつなぐ」部門.....主に棚田地域数を考慮
- 「クリエイティブ」部門.....新しく独創的な取組を考慮

選定委員

池邊 このみ(千葉大学グランドフェロー) 黒田 乃生(筑波大学芸術系教授) 樋田 かおり(株式会社トークナビ代表取締役 / アナウンサー)
中島 淳(福岡県保健環境研究所専門研究員) 中島 峰広(棚田ネットワーク名誉代表 / 早稲田大学名誉教授) 水柿 大地(NPO法人英田上山棚田団理事 / みんなの孫プロジェクト代表)
山路 永司(棚田学会会長 / 東京大学名誉教授) 山本 早苗(千葉大学社会環境学部社会環境学専攻教授)

令和5年度「つなぐ棚田遺産」感謝状贈呈企業等一覧

企業名等	支援の主な内容
株式会社 モンテディオ山形	農作業・販売支援
沼田土建 株式会社	棚田オーナー制度を利用した資源保全活動
株式会社 ウェブサクセス	棚田ウェブサイト管理・情報発信
常葉大学	農作業支援・地域おこし
岡崎酒造 株式会社	棚田米由来の製品製造・販売で知名度向上
飯山市立 東小学校	農作業支援・保全活動 棚田収穫米の消費
公立大学法人 長岡造形大学	カカシプロジェクトによる関心意識向上
実践女子大学	農作業支援・ワークショップ等の実施
NPO法人 当目	棚田米のブランド化・商品化・施設開設
氷見伏木 信用金庫	棚田オーナーでイベント参加・情報発信
横浜ゴム株式会社 新城工場	農作業支援・イベント支援 環境調査
岐阜県 信用農業協同組合 連合会	棚田オーナー制度を利用した農作業支援
立命館大学 経済学部	ボランティア活動・イベント提案と実行
若林酒造 有限会社	農作業支援・商品化・イベント開催
山口大学 トムソーヤー(ズ) 山口県立大学family	農作業体験受け入れによる交流・親睦
公営財団法人 福武財団	棚田再生・維持管理・イベント実施
一般財団法人 本山町農業公社	ブランド米普及・イベント実施・商品開発
学校法人 四国大学	棚田環境保全・活性化アイデア提案
トヨタ自動車九州 株式会社	農作業支援・関連イベントサポート
大和リース株式会社 長崎支店	農作業支援・災害復旧補助
株式会社 まちづくりやべ	棚田米の販促・オーナー制度サポート
特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校	耕作放棄地の再生・イベント企画 販促
株式会社 ビートル	情報発信・課題解決イベントの企画
合計	23企業等